

旭川おおぞら認定こども園

令和6年度

園評価票

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成

A-1-(1)-① こども園の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。

判断基準		評価 (A・B・C)
	全体的な計画は、こども園の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じ作成している。	A
B	全体的な計画は、こども園の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じ作成しているが、十分ではない。	
C	全体的な計画は、こども園の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じ作成していない。	

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開

A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	B
B	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備しているが、十分ではない。	
C	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備していない。	

A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	A
B	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っているが、十分ではない。	
C	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っていない。	

A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	A
B	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っているが、十分ではない。	
C	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っていない。	

A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	A
B	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開しているが、十分ではない。	
C	子どもが主体的に活動できる環境の整備や、子どもの生活と遊びを豊かにする保育が展開されていない。	

A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	A
B	適切な環境を整備し、保育内容や方法に配慮しているが、十分ではない。	
C	適切な環境、保育の内容や方法に配慮されていない。	

A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	A
B	適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しているが十分ではない。	
C	基本的な生活習慣を身につけ、身体的な活動ができるよう環境が十分整備されていない。	

A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	A
B	適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しているが、十分ではない。	
C	適切な環境、保育の内容や方法に配慮されていない。	

A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B
B	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育内容や方法に配慮しているが、十分ではない。	
C	障害のある子どもが安心して生活できる環境の整備、保育の内容や方法に配慮していない。	

A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	A
B	それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しているが、十分ではない。	
C	それぞれの子どもの在園時間を考慮した保育環境の整備、保育の内容や方法に配慮していない。	

A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	小学校との連携、就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	B
B	小学校との連携、就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮しているが、十分ではない。	
C	小学校との連携や就学を見通した計画、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮していない。	

A-1-(3) 健康管理

A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	子どもの健康管理を適切に行っている。	A
B	子どもの健康管理を適切に行っているが、十分ではない。	
C	子どもの健康管理を適切に行っていない。	

A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	B
B	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映しているが、十分ではない。	
C	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映していない。	

A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け、適切な対応を行っている。	A
B	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け、適切な対応を行っているが、十分ではない。	
C	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、適切な対応を行っていない。	

A-1-(4) 食事

A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	食事を楽しむことができるよう工夫している。	A
B	食事を楽しむことができるよう工夫しているが、十分ではない。	
C	食事を楽しむことができる工夫をしていない。	

A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	A
B	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供しているが、十分ではない。	
C	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供していない。	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭との緊密な連携

A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	A
B	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っているが、十分ではない。	
C	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っていない。	

A-2-(2) 保護者等の支援

A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	A
B	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っているが、十分ではない。	
C	保護者が安心して子育てができるようにするための支援を行っていない。	

A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	A
B	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めているが、十分ではない。	
C	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めていない。	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り

A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	A
B	保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めているが、十分ではない。	
C	保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)に取り組んでいない。	

A-4 苦情解決体制

A-4-(1)-① 苦情解決の仕組みが確立されており、周知・機能し保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	苦情解決の仕組みが確立され保護者等に周知する取組が行われるとともに仕組みが機能している。また、保護者が相談したり意見を述べたい時に方法や相手を選択できる環境が整備されている。	B
B	苦情解決の仕組みが確立され保護者等に周知する取組が行われているが十分に機能していない。また、保護者が相談したり意見を述べたい時に方法や相手を選択できる環境が整備されているが十分ではない。	
C	苦情解決の仕組みが確立していない。また保護者が相談したり意見を述べたい時に、方法や相手を選択できない。	

A-4-(1)-② 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	保護者からの相談や意見を積極的に把握し、組織的かつ迅速に対応している。	A
B	保護者からの相談や意見を把握しているが、対応が十分ではない。	
C	保護者からの相談や意見の把握をしていない。	

A-5 安全管理

A-5-(1)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	リスクマネジメント体制を構築し、子どもの安心と安全を脅かす事例の収集と要因分析と対応策の検討・実施が適切に行われている。	B
B	リスクマネジメント体制を構築しているが、子どもの安心と安全を脅かす事例の収集や要因分析と対応策の検討・実施が十分ではない。	
	リスクマネジメント体制が構築されておらず、子どもの安心と安全を脅かす事例を組織として収集していない。	

A-5-(1)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	感染症の予防策が講じられ、発生時等の緊急時の子どもの安全確保について組織として体制を整備し、取組を行っている。	A
B	感染症の予防策が講じられ、発生時等の緊急時の子どもの安全確保について組織として体制を整備しているが、取組が十分ではない。	
C	感染症の予防策が講じられていない。	

A-5-(1)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	地震、津波、豪雨、大雪等の災害に対して、子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	B
B	地震、津波、豪雨、大雪等の災害に対して、子どもの安全確保のための取組を行っているが、十分ではない。	
C	地震、津波、豪雨、大雪等の災害に対して、子どもの安全確保のための取組を行っていない。	

A-6 地域支援機能

A-6 地域の福祉向上のための取組を行っている。

A-6-(1)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。

評価

判断基準		(A・B・C)
A	地域の具体的な福祉ニーズ・生活課題等を把握するための取組を積極的に行っている。	B
B	地域の具体的な福祉ニーズ・生活課題等を把握するための取組を行っているが、十分ではない。	
C	地域の具体的な福祉ニーズ・生活課題等を把握するための取組を行っていない。	

A-6-(1)-② 地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	地域での子育てサービス（園開放、子育て相談等）を提供し、地域の子育てニーズについて職員間で話合われている。	A
B	地域での子育てサービス（園開放、子育て相談等）を提供し、地域の子育てニーズについて職員間で話合われているが十分ではなく改善が必要である。	
C	地域での子育てサービス（園開放、子育て相談等）を提供していない。	

A-7 ボランティア・実習の受入

A-7-(1)-① ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢が明示されており、受け入れについての体制が整備されている。	A
B	ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢は明示されているが、受け入れについての体制が十分に整備されていない。	
C	ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢が明示されていない。	

A-7-(1)-② 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等、積極的な取組を実施している。	A
B	実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備はしているが、効果的な育成プログラムが用意されていないなど、積極的な取組には至っていない。	
C	実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備しておらず、教育・研修が行われていない。	

A-8 職員の人材育成

A-8-(1)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	職員一人ひとりの育成に向けた目標管理等が、適切に行われている。	B
B	職員一人ひとりの育成に向けた目標管理等が行われているが、十分ではない。	
C	職員一人ひとりの育成に向けた目標管理が行われていない。	

A-8-(1)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	こども園として職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	A
B	こども園として職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定されているが、内容や教育・研修の実施が十分ではない。	
C	こども園として職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定されていない。	

A-9 施設長のリーダーシップ・主任の役割

A-9-(1)-① こども園の理念や基本方針等について職員に周知されている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	理念・基本方針を明文化したものを掲示又は職員に配布し、理解を促すための説明を行っている。また、職員が理解できているか、園長・主任が確認（採用時・採用後年1回）	B
B	理念・基本方針を明文化したものを掲示又は職員に配布し、理解を促すための説明を行っているが十分でなく改善が必要である。	
C	理念・基本方針を職員に説明・理解させていない。	

A-9-(1)-② 重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	重要な意思決定（変更）にあたり、園長は職員や保護者に目的・決定（変更）理由・経過等を十分に説明している。	A
B	重要な意思決定（変更）にあたり、園長は職員や保護者に目的・決定（変更）理由・経過等を説明しているが十分でなく改善が必要である。	
C	重要な意思決定（変更）にあたり、園長は職員や保護者に目的・決定（変更）理由・経過等を説明していない。	

A-9-(1)-③ 主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	主任が個々の職員の業務状況を把握しており、能力や経験に合わせた確な助言や指導を行っている。	A
B	主任が個々の職員の業務状況を把握しており、能力や経験に合わせた確な助言や指導を行っているが十分でなく改善が必要である。	
C	主任が個々の職員の業務状況を把握しておらず、助言や指導を行っていない。	

A-10 効率的な運営

A-10-(1)-① 外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	事業運営に影響のある情報の収集・分析をし、重要な情報は幹部職員や主要な職員間で共有するとともに、重要な改善課題は職員に周知し園全体で取り組んでいる。	A
B	事業運営に影響のある情報の収集・分析をし、重要な情報は幹部職員や主要な職員間で共有するとともに、重要な改善課題は職員に周知し園全体で取り組んでいるが十分でなく改善が必要である。	
C	事業運営に影響のある情報の収集・分析をしていない。	

A-10-(1)-② こども園運営に関して、中長期的な目標を設定している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成し、次代の組織運営に備え運営やサービスプロセスなどを検討している。	A
B	中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成し、次代の組織運営に備え運営やサービスプロセスなどを検討しているが十分でなく改善が必要である。	
C	中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成していない。	

施設のアピールポイント及び課題

	アピールポイント	課 題
A-1 保育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・温かい雰囲気の中で保育が行われているので子どもたちが安心して過ごしている。 ・体操教室やリズム遊びを取り入れ丈夫な体を作る保育をしている。 ・年齢に合わせた遊びを提供している。 ・異年齢児が交流出来るように保育を行っている。 ・子どもが安全に生活できるように、環境を整備した保育を行っている。 ・1人ひとりの発達状態や家庭環境に応じて、子どもたちと信頼関係を築けるような保育を行っている。 ・保育室は適度な温度、湿度を心がけ、加湿器などを用いて環境を整えている。 ・遠足、クッキング、社会見学などの行事が豊富に行われている。 ・アレルギーの子ども の状況を全職員で周知している。 ・子ども の日頃の様子などを会議などで全職員に知らせ保育に反映させている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣が身に付きやすいよう、理解意欲向上の為、直接援助のほかに、視覚的な教材、掲示物などが必要だと思慮する。 ・遊具や、玩具の種類がもう少しあると良い。 ・冬期間、未満児クラスの床が冷たく、子どもたちの足が冷たくなってしまうので工夫が必要。 ・障がい児保育をする上での、職員不足や配慮不足。 ・以上児、未満児の関わりが希薄化している。 ・保育環境は十分だが、定員を超えて受け入れているので、ゆったりとできるスペースが必要。
A-2 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの希望、要望に出来るだけ応えたり、コミュニケーションをとり、家庭との連携をはかっている。 ・園開放で、未就学の保護者との交流や子育て相談を行っている。 ・送迎時に子ども の様子を直接話したり、いつでも相談できる環境や雰囲気を作っている。 ・保護者の予定や都合に合わせて子ども の受け入れ（登園）を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とコミュニケーションを取りながら、保護者支援や子育て支援を、関係機関と連携して取っていく事が出来れば良いのではないかと。 ・勤務中は保護者の相談や伝達事項などゆっくりと話すことが出来ない。 ・保育士に相談できずにいる保護者に対してのフォローやケア。
A-3 保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価を行うことで自己の反省ができ保育にいかすことが出来る。 ・若手とベテランと一緒に保育をする事で保育を学ぶことが出来る。 ・定期的に園内研修、園外研修を行い、会議などで職員間で共有をしている。 ・保育について職員間で話し合いを行いよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の不適切な保育と感じたことを、職員間で伝えあう雰囲気作り。

	り良い保育ができるように努めている。	
A-4 苦情解決体制	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを貼りだし、いつでも体制を確認できるようにしている。 ・すぐに主任や園長に話を伝え、対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情解決体制について、理解できない部分もあり、把握が不十分である。 ・苦情を受けすぐに対応はしているが、その後解決し保護者が安心しているかは確認できていない。
A-5 安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の保育事故などの事例について伝え、迅速に防止対策等を話し合っている。 ・保育士と看護師が情報共有をしっかりとし、園内研修を定期的に行いながら感染症対策に取り組んでいる。 ・感染症がある場合、全体に知らせすぐに対応している。 ・ヒヤリハットや事故報告書の作成を行い、事故状況や対応策を全体で共有し話し合っている。 ・遊具や散歩コースの定期的な点検をチェック表を用いて行っている。 ・定期的な避難訓練を行い、避難経路や安全確認の方法について確認している。 ・様々な避難訓練を行い、災害に対応できるようにしている。 ・コドモンに子どもの体温を入れてもらい保育時の健康状態をチェックしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における取り組み（火事・地震）は行っているが、豪雨や大雪に対しての避難に関しては出来ていない。 ・未満児クラスにおいて、実際に災害が起きた時ブルーシートやカートをとっさに準備できるのかが不安。 ・感染症に罹患している保護者へのお迎え時対応が、保護者に対し周知が不十分だった。 ・インターフォンの保護者の声が聞き取りにくい為、不審者対応が不十分ではないか。 ・門扉を保護者からの要望で8時から9時までの間開けているが、不審者対応をするには閉めた方が良い。
A-6 地域支援機能	<ul style="list-style-type: none"> ・園開放やひまわりを月に一度行い、地域の方が園に来る事ができるようにしている。 ・園開放に来てくれた保護者に、おおぞら祭りへの参加を呼び掛けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援について行っているが、具体的に福祉ニーズの取り組みを理解できていない。 ・コロナ禍もあり支援の仕組みが見えてこない。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の福祉ニーズの取り組みについての理解が不十分。
A-7 ボランティア・実習の受入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・医大や看護学生など実習生を受け入れている。 ・対象実習生に合わせた、受け入れ対応ができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生の保育にかかわる研修とはどのような研修であるのか、理解が不十分であった。

<p>A-8 職員の人材育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師による勉強会があり、実践研修も行い、知識を高めることができ、保育にいかすことが出来ている。 ・研修報告をし、その後研修報告書を回覧しているので保育にいかすことが出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価により、保育の質の向上を図り、目標をもって取り組む必要がある。
<p>A-9 施設長のリーダーシップ・主任の役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートしてくれている。 ・主任が時々クラスに来て行事などのアドバイスをサポートをしてくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・細部への配慮やサポートが不足していると感じる。
<p>A-10 効率的な運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パート保育士を活用し、常勤保育士の負担を減らしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組まれていると思うが、職員まで周知されているのかはわからない。